

「富国有徳の理想郷—しずおか」を目指して・・・

第17号

# 県庁のしごとと改革ニュース



## 「速く」、「ムダなく」、「いい仕事」

23年度の「ひとり1改革運動」の取組成果を御紹介します！

静岡県では、職員一人ひとりが自ら考え、身近なところから改革・改善を実践する「ひとり1改革運動」に取り組んでいます。

この運動は平成10年度から始まり、これまでの取組件数は約15万件となり、経費の節減や時間の節約、県民サービスの向上に大きな成果を上げています。

平成23年度 14,431件の取組効果

**42億7,912万円 + 17人 + 8,013件**

節約と経済効果

### 25億2,239万円の事務経費を節減

- (例) 県庁の情報システム最適化によりサーバ等の賃借料を節減
- ・歳計現金の準備金を金利の高い長期運用に変更して収入を増加

### 3万2,594時間の事務時間を節約（職員17人相当）

- (例) OSS（ワンストップサービス）の利用率を向上させ受付時間を節約

### 17億5,673万円の経済効果が発生

- (例) 広告代理店等との包括契約を結ぶ企画コンペの実施と無料記事化を推進

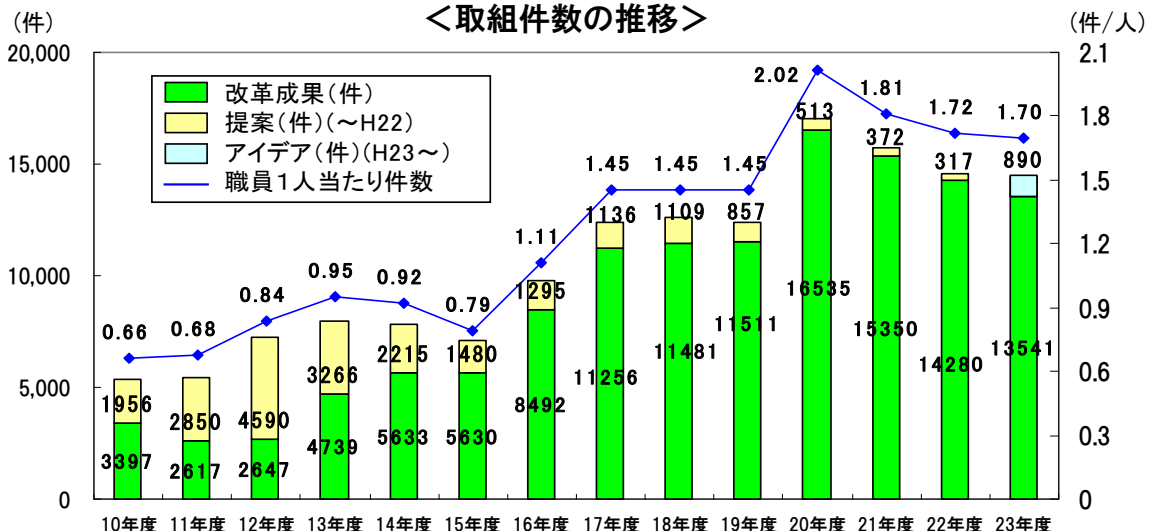
県民満足度の向上

### 県民の皆様の満足度が向上した取組 8,013件

- (例) 審査工程を見直して、補装具費及び自立支援医療の判定期間を短縮
- ・手続きを見直して、県管理の国有農地貸付地名義変更の添付書類を簡素化
- ・キャリアコンサルタントの実習を利用し、平日夜間・日曜日に就労相談会を実施

※ 効果額等は、取組成果のひとつの目安として、見込みも含めた各所属の自己申告値を集計したものです。

<取組件数の推移>



※以下の取組所属名は平成 23 年度のものです。

## 最優秀賞 <広報グランプリ大賞><ユニバーサルデザイン大賞> 全国初！介護マークの作成

健康福祉部 長寿政策課

認知症の人を介護する家族との意見交換会で「他の人には介護していることが分かりにくく、誤解を持たれる。介護中であることを示すマークを作成してほしい。」との要望を受けました。

そこで、全国初の介護マークを作成し 23 年 11 月末時点で 12,797 枚を配布しました。また事業所への普及や、電車の中吊り広告による PR なども行いました。

その結果、「変な目で見られなくなった」「トイレ介助時に助かった」という喜びの声を多数いただくほか、多くのメディアで取り上げられ、国を通じて全国に普及していくことになりました。



介護マーク

## 優秀賞 <IT活用大賞>

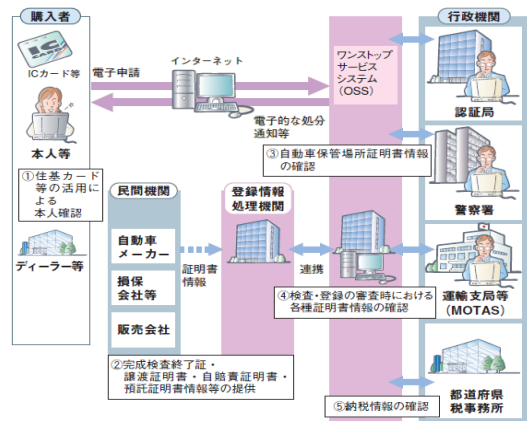
## OSS(ワンストップサービス)の機器見直しによるコスト削減と利用率の向上

経営管理部 税務課

自動車を保有するために必要な手続きをオンラインにより一括して行うOSS（ワンストップサービス）を提供していますが、利用率の向上と機器の更新が課題となっていました。

そこで、自販連静岡県支部、県警、陸運支局と協働で利用率向上を努めるとともに、サーバ機器の更新に合わせて従来のリース契約を見直し、サーバの統合などを実施しました。

その結果、利用率が飛躍的に伸び、申告書の受付処理の時間短縮、課税の正確性が更に向上するとともに、運用コストを大幅に削減しました。



OSS申請の流れ

## 優良賞 <安全・安心大賞>

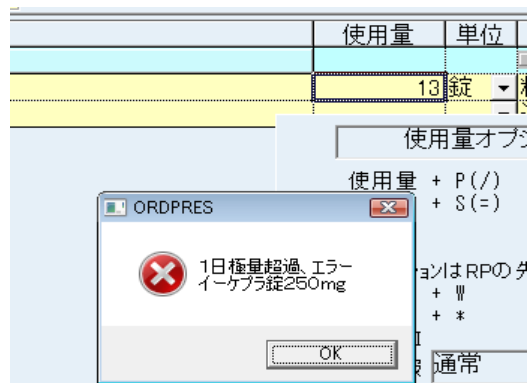
## 小児薬用量自動監査システムの構築

県立こども病院 薬剤室

不適切な薬用量が処方され患者が健康被害を受けることを避けるため、処方せん出力時に薬剤師が小児薬用量を計算・監査していますが、膨大な時間を費やしていました。また、院外に発行される処方せんをすべて監査することは不可能でした。

そこで、電子カルテの導入を機に、薬用量を自動的に計算する監査システムを作成し、処方入力時に不適切な薬用量の登録を不可能としました。

その結果、薬用量の不適切な入力が根絶され、また年間平均約 130 時間の節約につながりました。



小児薬用量自動監査システム

## ＜県民サービス大賞＞ 判定期間の短縮化

東部健康福祉センター 相談判定課

補装具費及び自立支援医療(更生医療)の判定は、判定依頼から結果を通知するまで2~3週間必要で、市町や申請者から判定期間の短縮を求められていました。各工程の検証の結果、嘱託医の医学的審査(書類審査)の実施まで数日から数週間の空白期間が生じていました。

そこで、嘱託医や医療機関と協議し、審査をこれまでの約2週間間隔の不定期の実施から、毎週、定期的に実施することにしました。

その結果、支給決定が迅速にできるようになりました。



医学的審査の様子

## ＜協働・連携・地域外交大賞＞ 薬草講座の開催における関係機関との協働について

健康福祉部 薬事課

薬草に関する正しい知識の普及・啓発のため「薬草と親しむ会」を開催していましたが、公道での講座実施による事故リスクや講師の確保が問題となっていました。

そこで、県(企画運営)、県立大学(講師、薬用植物園の提供)、(社)静岡県薬事振興会(報償費負担)の共催とするとともに、講義会場の提供について県立中央図書館から協力を得ました。

この結果、県費節減による薬草講座の実施のほか、薬用植物園のPR、県立中央図書館の施設利用者数増を実現しました。



薬草講座

## ＜見える化・情報発信大賞＞ 「江川坦庵絵画コンクール」における情報発信の取組

文化・観光部 文化政策課

「江川坦庵絵画コンクール」を本年度初めて開催しましたが、限られた予算の中で表彰式の会場探しや作品の掲示場所に苦慮していました。

そこで、会場として伊豆の国市で開催される「パン祖のパン祭」を利用し、司会等も祭の中で対応しました。また、児童から提出された作品をすべて伊豆箱根鉄道の車内に掲示することとし、掲出経費の半額負担、表彰児童への副賞の提供など様々な地域の企業の御協力をいただきました。

その結果、少ない経費で集客力を高めることができ、児童にもよい記念となりました。



伊豆箱根鉄道内への掲示

## ＜仕事の進め方の見直し大賞＞

### 業務手順を見直して全員が簡単に資料作成

県立静岡がんセンター 総務課

「ヒヤリ・ハット」を報告し、再発防止策の構築等を行う「インシデント・アクシデント報告システム」について、これまでは医学的な専門知識を有した担当者が全件の内容を確認して分類していました。

そこで、担当者以外の職員にもできるように、報告事案のDB入力フォームに分類用チェックボックスを作成、件数の多い4つの部会に関する事案は入力フォームにマーク、などの手順改善を行いました。

その結果、誰でも業務を実施できるようになり、年間で約52.4日の節約になりました。

【RMQCチェック欄】(報告者やリスクマネージャーが記入する必要あり)		
RMQCチェックレベル	『レベル0：間違い等』	
項目	種類①	種類②
『薬剤』	『抗がん剤』	『末梢静脈点滴』
<input type="checkbox"/> 注射	<input type="checkbox"/> 内服	<input type="checkbox"/> 麻薬
<input type="checkbox"/> チューブ		
備考	部署からの聞き取り、追加報告、TMSアドバ 『』	

インシデント・アクシデント報告システム

## ＜予算節減努力大賞＞

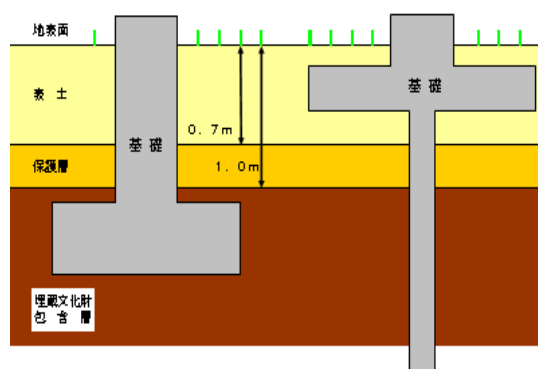
### 工事設計の工夫による経費の節減

教育委員会事務局 財務課

埋蔵文化財の存在する建築工事現場では、建築物の基礎などが遺物の包含層に影響を与える場合、発掘調査が必要となり多額の費用を要します。

そこで、設計時に基礎杭の配置を工夫し包含層の破壊を最小限にしたことや、建物自体の軽量化を図り基礎を浅くし包含層に干渉しない設計にするなどの工夫により、埋蔵文化財の発掘調査を必要としない工法としました。

その結果、工事費は増加しましたが調査費用を削減し、トータルで34,337千円の節減となりました。



従来型基礎（左）と工夫した基礎（右）

## ＜省エネルギー・節電大賞＞

### 道路局における節電の取組

交通基盤部 道路局

節電については、職員個々の問題としての意識の醸成には至っていませんでした。

そこで、積極的に取り組もうという意識が道路局全体で醸成されるように、「道路企画課は35.7%、道路整備課は38.9%、道路保全課は50%消灯」「12時20分以降のテレビ消灯」「局内節電アイデアコンクールの実施」「局内節電標語コンテストの実施」「機器類の使用頻度の点検と待機電力の削減」など様々な節電に取り組みました。

その結果、局内の意識向上と自主的な取組による節電を実現しました。



道路局節電標語コンテスト

## 静岡県 経営管理部 行政改革課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 電話：054-221-2912 FAX：054-221-2750

E-mail [gyoukaku@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:gyoukaku@pref.shizuoka.lg.jp) <http://www.pref.shizuoka.jp/soumu/so-030a/>

平成24年4月発行